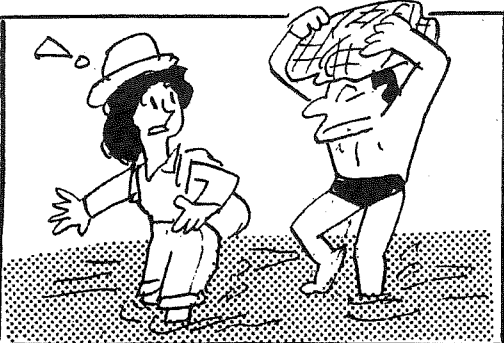
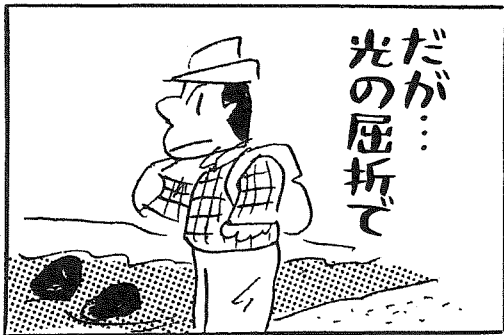
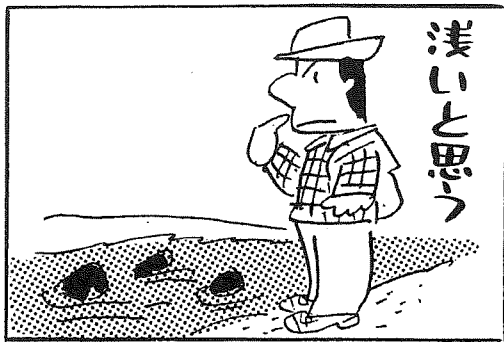


浅い川も深く渡れ

どんな作業でも油断大敵 注意して



「浅い川も深く渡れ」とは、川が浅いからといって、油断してはいけけない、浅い川も深い川と同じように用心深く渡りなさいと、油断を戒める言葉です。

「油断大敵」「石橋を叩いて渡る」「転ばぬ先の杖」など、昔から油断を戒める言葉はたくさんあります。

実際、川や海などの水深は、光の屈折によって本当の深さよりも浅く見えることがあり、そのため子供たちが溺れたりする事例が跡を絶ちません。

職場の労働災害も、「こんなところから墜落す

るはずはないので安全帯は使わなくても…」とか、「ほんのちよつとのことだから、スイッチを切らなくても…」「こんなところで酸欠のはずは…」など、危険性に対する認識の甘さや油断で事故や災害が発生することが少なくありません。

「用心は深くして、川は浅く渡れ」ともいいます。何事も十分用心して対策を立て、その上で最も安全なところを渡りなさい、という意味です。

どんな作業でも油断大敵、用心に越したことはありません。